

2016 年（平成 28 年）5 月 23 日（月）  
第 28 回霧ヶ峰自然環境保全協議会 資料

平成 27 年度踊場湿原外来種駆除モニタリング中間報告

諏訪市教育委員会

1. 目的：近年、踊場湿原において特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの侵入、定着が確認され、今後の分布拡大が懸念されている。そこで本調査では踊場湿原における本種が定着している群落において、刈取り及び掘り取り処理実験を実施し、適切な駆除方法を検討することを目的とした。

2. 方法：実験は刈取り区及び掘り取り区、無処理区の計 3 処理区で実施した。刈取り区と無処理区については、すでに 2014 年に H26 年度長野県生物多様性保全推進支援事業で設置されたものを継続使用させていただいた。2015 年からは新たに掘り取り区を設置した。各処理は 7 月下旬から 8 月上旬に実施し、オオハンゴンソウのみを対象とし、土壌の攪乱には充分留意した。刈取り区は 2014 年から 2 年連続で、掘り取り区については 2015 年から処理が実施された。植生調査は出現種及び被度、群度、群落高を測定記録し、7 月に実施した。立地環境調査では相対光量子密度及び土壌含水率、土壌硬度を同時期に 5 反復で測定した。

刈取り処理については刈込バサミまたは剪定バサミで地上部のみを丁寧に切り取った。また、掘り取り処理については、オオハンゴンソウの地下部をすべて掘り取るように丁寧に作業し、土壌のかく乱をできるだけ生じないようにした。また、掘り取った際にできた穴も元の土を丁寧に埋め戻すようにした。刈取りや掘り取り後のオオハンゴンソウの植物体はすべてビニール袋に入れて、調査区の外に持ち出し決められた方法で焼却処分された。今後、さらに 2016 年の同時期に同調査を実施することによって、その効果を検証する。

3. 結果：全調査プロットでは、オオハンゴンソウが被度 2～5 で優占した。その他の優占種としてはオニゼンマイ及びワラビ、ススキ、ヨモギ等の在来のシダ植物や、やや乾生地に生育する多年生草本植物の出現するプロットも確認された。刈取り区では処理後 1 年の 2015 年にはオオハンゴンソウの植物高が低下したプロットもあったが、同時に外来種のヒメジョオンの出現が確認された。また、刈取り区ではオオハンゴンソウの被度の低下がみられなかったため、駆除の効果を高めるために処理頻度を増やすこと、また本種や他の外来種の新たな侵入を抑制するために作業時の土壌かく乱の防止する必要性が考えられた。掘り取り区の処理の結果については、次年度の調査を待って報告する。